

2-1

プレゼンテーションのタイプ

プレゼンテーションのタイプ

大学で行うプレゼンテーションには、大きく分けて以下の3つのタイプがあります。

1. 話題提供型	授業のテーマや身近な出来事について、比較的短い時間で話すものです。簡略な資料を用いる場合もありますが、その場で指名されて、即興で話すこともあります。
2. 報告型	授業で指定された文献の内容や課題などについて調べたことを、レジュメやスライドなどの資料を用いて報告する形式のものです。報告の後に、内容についての質問を受けることもあります。
3. 研究発表型	卒業論文など、自分自身の研究成果について、レジュメやスライドなどの資料を用いて報告し、質疑応答、議論を行うものです。研究の途中段階で、研究の概要や進み具合、その後の進め方などについて中間報告を行い、聴き手の意見を聞くこともあります。

※ Master of Presentation では、主に2の報告型と3の研究発表型についての解説を行っています。



【コラム】 大学の授業で行うプレゼンテーションと企業で行うプレゼンテーションの違い

大学の授業で行うプレゼンテーションと企業などで行うプレゼンテーションでは、目的や内容が異なります。ただし、大学でも場合によっては、企業でのプレゼンテーションに近い形式で行うこともあります。この Master of Presentation では、主に大学などのアカデミックな場で行うプレゼンテーションについて解説していますが、どちらの場合でも、「準備の流れ」や「アウトラインを作成する」「発表用メモを作成する」「リハーサルを行う」などの基本的なポイントは同じです。

<大学と企業で行うプレゼンテーションの違い>

	大 学	企 業
目 的	・調査結果の報告 ・研究成果の発表	・事業の推進 ・販売の促進
内 容	・調査結果を報告し、聴き手と情報を共有する ・研究成果を発表し、その意義も含めて聴き手と議論する	・個人や社内のグループで立てた企画を紹介する ・自社製品を顧客にアピールする
聴き手	・授業やゼミの参加者(学生) ・大学の先生	・企画の採用可否を決定する社内の人 ・顧客(クライアント)